

湧水地および水源林の保全

東京環境工科専門学校 自然環境研究クラブ

代表 薄葉 重

東京都

はじめに

東京環境工科専門学校では、山梨県増穂町平林地区において、増穂町から借用した町有林を学校実習林として使用するとともに、その周辺を自然環境研究クラブの活動の場として利用しています。私たちが活動を始めたとき、実習林および、隣接するサクラ池跡（昨年までは水がありませんでした）周辺は、その大部分がヒノキの植林地で、人手不足から荒廃しつつあり、豊かな生物相をもっているとは言い難い森林が広がっていました。

そこで、東京環境工科専門学校および、自然環境研究クラブでは、実習林のヒノキを広葉樹へ樹種転換し、豊かな生物相や水源林としての機能を回復させていくことを目標にして、平成7年より毎年小面積ずつの伐採と整備をおこなっています。伐採後は実験区を設けて、植生の経年変化調査をおこなうとともに、周辺に生息する動植物相についての調査も実施しています。

昨年についてTakara・ハーモニストファンドより助成していただけることとなり、これまで実施してきた活動を含め、本年度の活動報告をいたします。

（1）水源林や湿地周辺の樹種転換と草刈りなどの整備作業

実習林に隣接したヒノキ林内に、常に湧水が流れ込んで湿っている湿地が存在します。この湿地は厚く泥が堆積していて、イノシシが泥浴びに利用していたことから、私たちは通称「ヌタ場」と呼んでいます。今年度も昨年同様に「ヌタ場」の草刈りと周辺木々の択伐、ゴミ拾いを実施しまし

た。

（2）増穂町事業、サクラ池の整備および池周辺水源林の樹種転換への提案

本年度増穂町は、町制50周年を迎え、いろいろな記念事業が平林地区を中心に展開されました。サクラ池整備事業では、水を失っていたサクラ池が整備されて、常時湛水したため池として再生されました。サクラ池の岸辺では21世紀の森づくり事業として、植樹祭が平成13年6月3日に実施されました。この植樹祭に対し、町からの協力要請が東京環境工科専門学校にあり、私たち自然研究クラブが中心となって参加協力しました。これまでに私たちが蓄積してきた動植物調査の結果を踏まえて、池の整備に関する助言、植樹祭で植栽する樹種についての提案、パンフレット作成をおこないました。その結果この催しでは、サクラ池の周囲に整備されました「せせらぎ水路」を会場にして、参加者によりオオヤマザクラ、コブシ、ミズキ、ナナカマドミツバツツジの苗木420本が植樹されました。さらに、「増穂町21世紀の森づくり」のスタート地である平林地区周辺の森で見られる動物や植物を集めたパンフレット“増穂町「21世紀の森」の生きものたち”（A2サイズ、両面カラー、4つ折り）が作成されました。

（3）増穂小学校との環境学習交流会

増穂西小学校との環境学習の取り組みは、2年前より始まっております。当校の実習地を増穂町平林地区にお借りしていること。その近くにある増穂西小学校の児童と当校生徒が日常的に出会う

機会があったこと。また、増穂西小学校が環境教育モデル校として指定されており、環境学習に力を入れている学校であることなどの経緯から「環境学習交流会」という名のもとに始まった取り組みです。

本年度は、6月・10月に1回ずつ、計2回のプログラムを実施しました。本年（2001年）は、学校授業に総合学習という新たな時間が設けられる前年という時期であったため、先生方の関心の高さも感じながら、プログラムの作成と実施に取り組みました。

1回目は、最初にアイスブレイクゲームとして、スタッフと児童の緊張をほぐすためと、児童らの様子をつかむ目的を持ったゲームを実施しました後、趣向を凝らしたプログラムをおこなっています。

2回目は、前回の環境学習交流会以降、焼き芋大会や読書大会といった学校行事に招待されて、より親交を深めていたことからアイスブレイクゲームはおこなわず、簡単な挨拶をした後、すぐにプログラムを始めました。以下に実施した2回のプログラムの概要を説明します。

*第一回テーマ：平林の自然の再確認

ー生き物ジェスチャーゲームー

日時：2000年6月11日（金）午前10時45分から12時20分

場所：増穂西小学校体育館

対象：増穂西小学校児童1～6年生 15名

班分けを兼ねたアイスブレイクゲーム「逆さ名前探しゲーム」の後、グループ対抗の生き物ジェスチャーゲームをおこないました。このゲームは、各グループ中から1人ずつ（低学年の児童から）が前に出てきて事前に用意した動物カード（予め増穂西小学校の児童にアンケートをおこない、平林で見たことがあったり、知っている生き物の名前を書いたもの）を引きます。引いたカードに書いてある動物を声など出さないで身体だけを使っ

て表現し、演じている動物を他のグループ員が当てるというゲームです。正解すると演じた動物カードがもらえて、このカードを一番早く5枚集めたグループが勝ちとなります。

ジェスチャーゲーム終了後、「生き物記録カード」を配り、自分がジェスチャーした生き物について、特徴などを記入してもらいます。「生き物記録カード」の作成と並行して、「生き物発見カード」も作成し、こちらで用意した平林の地図上で、実際にその生き物を目撃した場所に貼ってもらいました。それぞれが完成したらグループごとにまとめた結果を発表して終了しました。

*第二回テーマ：秋を見つけよう

ー自然観察ハイキングー

日時：2000年10月30日（火）午前9時00分から12時20分

場所：増穂西小学校および平林集落内

対象：増穂西小学校児童1～6年生 15名

増穂西小学校周辺に5つの観察ルートを設定し、スタッフと児童数人ずつの5グループを編成しました。グループの代表によるくじ引きにて観察ルートを決定し、グループごとに自然観察ハイキングをおこないました。ハイキング中は、児童が見つけた生き物や植物を観察して、第1回目のプログラムでも使用した生き物記録カードに記録してゆく形式をとりました。ハイキング終了後、小学校の体育館に集合して、各グループごとに見つけた生き物についての発表をして終了しました。なお、作成した生き物記録カードは、第1回目のプログラムで作ったものと併せて綴じ、1冊の手作り生き物図鑑を作成しました。

観察会についてアンケートをとったところ、昆虫に興味を示す児童が多くみられました。また、新しい発見という好奇心を満たすようなことが児童達にとって面白いことのようにでした。

（4）実習林（ヒノキ林）の樹種転換と整備

樹種転換の一環として、ヒノキの伐採と前年度以前に伐採をおこない実験区としている場所の管理作業などをおこないました。

今年度の伐採は、9月22日から24日の3日間で実施し、ヒノキの伐採と以前伐採した場所の草刈りなど管理作業をおこないました。

(5) 設置実験区の植生変化の調査

平成7年から伐採をしている場所に25m×25mのコドラート実験区が設けられており、継続して植生の変化を調べています。今年度は、植物班が中心となり6月5日から10日の6日間でコドラート内の毎木調査と植生調査を実施しました。初期の頃に伐採をおこなった箇所は、未伐採の林床に比べ、低木広葉樹が高密度に生育していました。

(6) 平林地区周辺に生息する動植物調査

今年度は、興味を持った生物群について班分けをおこない、哺乳類班、鳥類班、両生・爬虫類班、昆虫班、植物班が班ごとに調査を実施しました。以下に各班ごとの活動内容を簡略にまとめました。

1) 哺乳類班

平林とその周辺地域（より低標高の富士川周辺、より高標高の櫛形山周辺）にて、ネズミ類・モグラ類の生息確認捕獲調査を実施しました。モグラ類については、標高の高い所に住んでいるアズマモグラ（平林のアズマモグラ）と低地に住むアズマモグラ（富士川河川敷のアズマモグラ）の比較をおこなうため、それぞれで捕獲調査を実施しましたが、捕獲効率が悪く比較するためのサンプルが集まりませんでした。来年度以降も継続して調査を実施して、結果をまとめる予定です。

2) 鳥類班

平林に生息する鳥類を把握するために踏査調査をおこないました。また、猛禽類であるハチクマの生息を確認したため、定点調査によって

行動圏と営巣場所の特定を試みましたが、営巣木の特定には至りませんでした。ハチクマは複数年間、ひとつの営巣木で繁殖するとの報告もあるので、次年度は営巣木の特定をおこなって、繁殖生態について調べてもらいたいと思います。

3) 両生・爬虫類班

踏査によって平林地区に住む両生・爬虫類相の把握につとめました。両生類では、アズマヒキガエル・ニホンアマガエル・タゴガエル・シユレーゲルアオガエル・モリアオガエルを確認しました。タゴガエルとモリアオガエルについては、繁殖場所も確認しましたが、タゴガエルの繁殖を確認していた沢が周辺林の伐採により大きなダメージを受けていたので、来年度以降の繁殖がどうなるのか心配です。

爬虫類では、シロマダラ以外の本州に生息する全種について確認しました。

4) 昆虫班

踏査やベイトトラップ、ライトトラップによるファウナ調査を実施しました。採集した昆虫の標本作成もおこないました。作成した標本類は、学校で保存していく予定です。

5) 植物班

実習林内でのコドラート調査と平林地区のフロラ調査を実施しました。実習林内において、数年前に伐採をおこなった所は、ギャップとなっていてスポット的に陽光が当たっていました。そこには林内の日陰部分に比べて成長が良く勢いのあるクリ、ガマズミ類、カエデ類が高密度で生育していました。

終わりに

今回、増穂町でおこなっている樹種転換と水源林保全の活動に対してタカラ・ハーモニストファンより助成していただいたことで、より活発で実り多い活動をおこなうことができました。本年度は、活動の本拠地である平林地区において、増

穂町による多くの事業が展開され、周辺環境が大きく変化しました。今後は、これらの整備による変遷についてもモニタリングしていく予定です。

本活動は、単年度で終了するものではなく先の

長い活動です。また、多義的で流動的な側面を持っており、これからも地道に、かつ積極的に、活動をしていきたいと思いをします。



1. 通称「ヌタ場」の風景



2. 第1回環境プログラム アイスブレイクゲーム
(逆さ名前探しゲームの様子)



3. 第1回環境プログラム「平林の自然の再確認
—生き物ジェスチャーゲーム—」の風景1
(ジェスチャーの様子)



4. 第1回プログラム ジェスチャーゲーム
(生き物記録カード作成中の様子)

見つけた日 月 日 ()
 見つけた場所
 見つけた人
 生き物の名前

Q、どんなところにいた？

Q、なにをしていた？

Q、どんな生き物だった？
 (色、さわったかんじ、鳴き声など)
 見つけた生き物の名前

Q、わかったこと (おもしろかったこと)



5. 第1回プログラム ジェスチャーゲーム
(生き物記録カード)



6. 第1回プログラム ジェスチャーゲーム
(発表の様子)



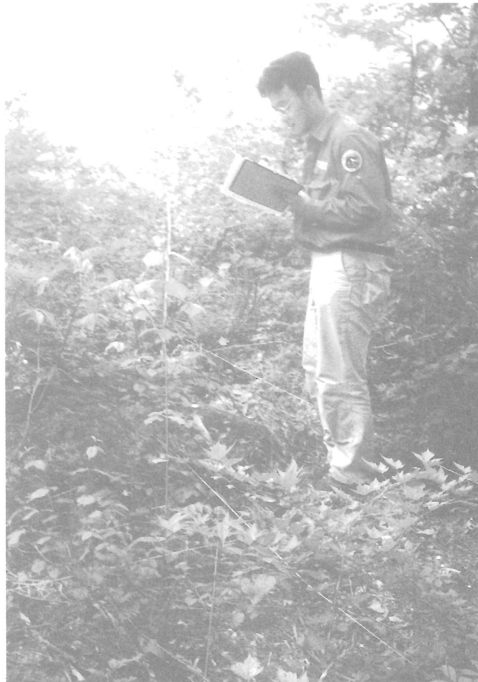
7. 実習林内での伐採作業風景1
(伐採方法の説明)



8. 実習林内での伐採作業風景2
(伐採木の枝はらい)



9. コドラート実験区内での植生調査風景 1

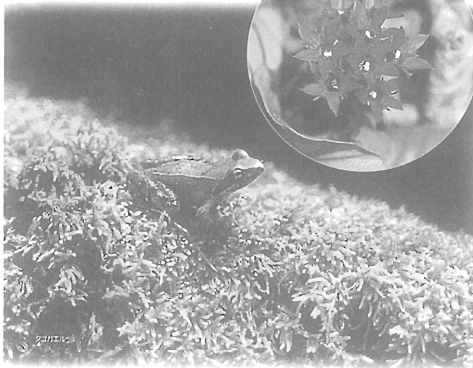


10. コドラート実験区内での植生調査風景 2

増穂町50周年記念

増穂町 [21世紀の森]の生きものたち

2001年



増穂町
学校法人 東京環境工科学園

いろいろな森



増穂町平林地区には
いろいろな森があります。
ここに紹介してみましょう。

東京環境工科大学附属
ヒノキ半植林地だった森を、落葉広葉
樹を主体とした森に変えていく
ための実験を行っています。
ヒノキを切って放置したらどうなるか、
刈り取り草地にはどんな植物が生
えてくるか、針葉樹植林地の樹種転
換はどうしたらいいのか、などい
ろんなことを調べています。
桜池の森の樹種転換も、ここで調
べられた結果をもとに行われてい
ます。

クリとコナラの林

もし植林されているスギやヒノキ
を切ったら、桜池周辺はどんな森
になるでしょうか。
調査からわかったことは、クリと
コナラ、それにシデ類(サワシハ・
イヌシデなど)が中心になった、写
真にあるような落葉広葉樹林に
なるだろうということです。
ヒノキ林とはだいぶ違った雰囲気
の林ですね。



[21世紀の森]でみられる動物たち

ここには様々な動物たちは、東京環境工科大学の学生たちが、増穂町平林地区を中心に7年間にかけて調べた、たくさんの種類のなかの一部です。増穂の森にはたくさんの生きものが暮らしています。

ほ乳類	鳥類	昆虫類	甲虫類
アズマモグラ	ハチクマ	【トンボ類】	シロクワ
ニホンカマキリ	オシロイ	クロイトトンボ	ヒメマキカブリ
ノコギリ	ハクガク	アサギイトトンボ	ミヤマカブリ
ニホンリス	ノスリ	ホトトギス	コウバカブリ
ムササビ	トビ	カワトンボ	コウバカブリ
アカネズミ	サシバ	ムカシトンボ	コウバカブリ
ヒメネズミ	コシユケイ	ヤマサナエ	コウバカブリ
キツネ	キツネ	タビトサナエ	コウバカブリ
テン	クマ	ホトトギス	コウバカブリ
イタチ	アオガラス	オニトンボ	コウバカブリ
アライグマ	ヒヨドリ	シオイトトンボ	コウバカブリ
ハクビシ	ミンソライ		コウバカブリ
イノシシ	トウツクミ	【蝶類】	ミヤマカブリ
	クワガタ	ミヤマカブリ	ミヤマカブリ
	ツグミ	イモムシ	コウバカブリ
	アライグマ	ウスハシロチョウ	コウバカブリ
	ウグイス	アキハ	コウバカブリ
	センガイムシ	キアキア	コウバカブリ
	キウイタナキ	カラサアキア	コウバカブリ
	キツネ	ミヤマカブリ	コウバカブリ
	オオトリ	キツネ	コウバカブリ
	エナガ	モシロチョウ	コウバカブリ
	コガラ	シロクロシロチョウ	コウバカブリ
	ヒガラ	モンシロチョウ	コウバカブリ
	シロウカラ	スズメバチ	コウバカブリ
	ヤマカガシ	ツグミ	コウバカブリ
	メシロ	コウバカブリ	コウバカブリ
	ネオシロ	ルリシジミ	コウバカブリ
	カワラヒワ	スズメバチ	コウバカブリ
	カラス	ツバメ	コウバカブリ
	ハシロヨリ	ベニシジミ	コウバカブリ
	ハシロヨリ	ヤマシジミ	コウバカブリ

増穂町[21世紀の森]の生きものたち

発行日：2001年(平成13年)6月21日
発行所：増穂町 自然環境課 増穂町庁舎1131 電話0556-22-3111 fax0556-22-3177
印刷所：学校法人 東京環境工科学園 東京編印センター 東京都港区赤坂2-2-1 電話03-3409-2228 fax03-3409-1725

発行所：自然環境課 増穂町庁舎1131 電話0556-22-3111

ヤマガラ

ほぼ1年中見られる留鳥で、スズメくらい
の大きさです。木々のこすえで青虫や木
の葉などを食べて、両足でそれらを押しさ
え食べる姿を見ることがあります。



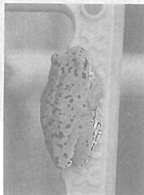
キウイタナキ

日本で一番小さな鳥のひとつです。体重
が6グラムくらいで、スズメよりずっと小さく、
野外で見かけるのがおもしろいですが、
それは針葉樹の枝先などで見つけるこ
とができます。



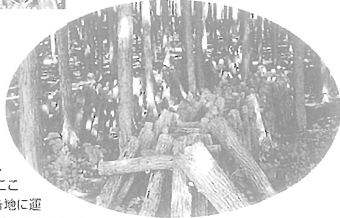
モリアオガエル

6月ごろ枝先にソフトボールくらいの大
きさで、クリーム色の泡のかたまりを付ける
ことで有名です。これはモリアオガエルの
卵です。平林には池などの水辺が少ない
ので、プールや、田んぼのあぜなどに
生むことが多いようです。アマガエルより
もずっと大きいです(センチ以上) になり
ます。吸はんか強いので、こんなところでも平気
です。





氷室神社の社有林
氷室神社はスギの広大な森をもっています。神社のまわりには山梨県の天然記念物に指定された「大杉」などの大木が何本もあり、神秘的な森を作っています。



ヒノキ林
増穂町平林地区にはヒノキの植林地がたくさんあります。苗を育てる畑、圃(びょうぼ)もあって、ここで育てられたヒノキ苗が各地に運ばれ、植林に使われます。手入れされた林内ではシイタケ栽培が行われています。

【21世紀の森】の動物たち

ノウサギ
平林あたりの草地や森の中では、丸いノウサギの窟をよく見かけます。雪の多い冬には、地上50センチくらいにある、タラノキやコシアブラの芽を食べたあとを見つけたことが出来ます。増穂のノウサギは東北地方のノウサギと違って冬でも白くありません。



ムササビ
首から前足、後ろ足、しっぽの付け根にかけて飛膜があり、高い木から滑空します。氷室神社のスギの大木にできたうろにすんでいます。夜行性なのでなかなか見ることは出来ません。古い大木がないとすむことが出来ませんから、そういった森がなくなるといなくなってしまうです。

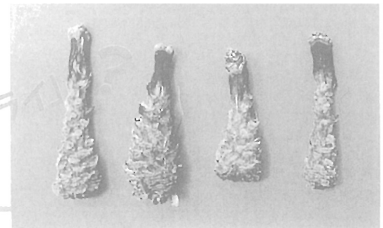
森には木材を生産するほか災害を防ぐ、水を涵養かんよつころなど大きな役割があります。昔から人々は山に木を植えて、面積を見ながら大木に育つまでを待っていました。近年はこれらの役割に加えて、森がもつさまざまな生態系が向けられています。地球の温暖化を防ぐ、生きものすみかを提供したり、人々が学習したり、ふれあいの場となりうる機能です。これらの機能が十分に発揮されるには、これまで以上に「21世紀の森」を育てる必要があります。それが増穂町「21世紀の森」の「エビフライ」です。

21世紀の森

増穂町「21世紀の森」は、特定の場所のことだけをあらわす言葉ではありません。森がもっているたくさんの機能を目を向けた新しい森づくりの考え方をいいます。今までの森づくりと比べ、森林の多面的な機能を重視した森づくり、増穂町が本来に託す遺産、それが「21世紀の森」です。「21世紀の森」は増穂町の北西部、龍形山のすぐ野に位置する平林地区、桜池の森がスタートです。

森に生えている木の種類が単調になると、そこにすむ動物の種類も少なくなっていきます。今までに調べられた結果からは、ヒノキ植林の多い平林地区でも、意外に多くの種類の動物が見つかっています。しかし、なかなか出会えないのずらしいものが多いです。たとえば乳類やヘビ類は、山梨付近に生息するものはほとんど記録されていますが、カモシカやニホンシカ、タカチホヘビやシロマダラなどをこの付近で見つけることはなかなか困難です。

ニホンリス
【21世紀の森】付近ではよく見かけることが出来ますが、日本各地では数が少なくなってきています。森の中ではミミヤマツの松ぼっくりをかじって、芯だけを、まるで「エビフライ」みたいな形にしているのを見つけることが出来ます。



[21世紀の森]の植物

森の周辺にはたくさんの植物が生育しています。森のなかや林道、田畑、家のまわりなど、それぞれの環境には、それぞれの植物たちの営みがあります。

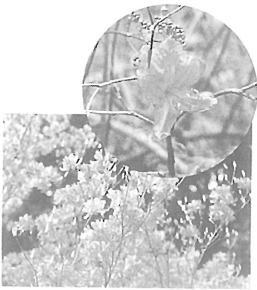
森のなかで耐える植物たち

森のなかは「昼なお暗き」場所もあれば、こもれ日が地面までとどいて、思ったより明るい場所もあります。あまり目立ちませんが、林の下の方で生活する植物たちは、大きな樹とうまく付き合いつながりながら生行しています。クリ、コナラ、モミ、マツ、コシアブラ、ヤマツツジ、ミツバツツジ、ウミズサクラなど。ヒノキなど森の高木がなくなると陽が当たるようになると、一気に成長し始めたり、花をつけたりします。



森の中

森のなかでは大きく育った木に目を奪われてしまいますが、よく観察するといろいろな植物がいっしょに生活しています



ミツバツツジ

ミツバツツジは、ヒノキ林などが伐採されて陽を浴びると紫色のきれいな花を咲かせます。増穂にはよくあるツツジの一種ですが、植林地が多いので花を咲かせる株は少ないです。残念なことに花を咲かせる目立つために、心ない人にほり取られて持ち去られてしまうことも多いのです。

アカバナヒメイワガミ

1年中央い葉っぱをつけている紫緑の草で、表面もピカピカしていて特徴があります。これが「カガミ」という名が付く由来でしょうか？
このアカバナヒメイワガミは、赤みの強いピンク色の花をつけます。山の岩があるようなところで、地面をおおおうように生えているのですが、ヒノキの植林地の中でも生えていました。大羽にしたいですね。



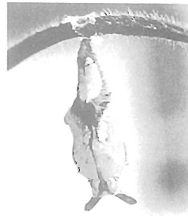
家のまわりや道ばた

私たちの家の周りにもたくさんの自然があります。家の軒下、庭、石垣、田畑、あぜ道、とまり道、そしてお寺や神社など。濡れていたりが乾いていたり、あるいは石の間にすきまがあったり。道ばたも車や人に踏まれたりする厳しい環境ですが、そんな場所にも植物が力強く生きていて、身近に生きものを観察できるポイントになっています。



スイカズラとイチモンシチョウ

甘い香りのする花ははじめ白く、やがて黄色に変わっていきます。冬でも緑の葉があるので忍冬(にんどう)の別名があります。
葉をさかすとスイカズラを食べて育つイチモンシチョウの幼虫やさなぎを見つけることができます。



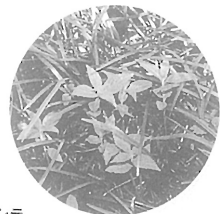
イチモンシチョウの幼虫

ヒトリシズカ

古くはツキネグサと呼ばれてい。もなか、江戸時代の中頃に以降に、花の穂が2本あるフタリスカと区別されてヒトリシズカになったと言われています。



白い糸状の花が、暗い森のなかでもそこだけ明るくしているように、虫を引き付ける役目も果たしています。



シモバシラ

シモバシラはシソの仲間です。ときどき森のなかに生えているのを見つけることができます。夏の終わりにから秋にかけて花を咲かせたシモバシラは、やがて地上部が枯れてきます。



12月になって本格的寒さが訪れるころ、この茎が吸い上げた水分が凍って「シモバシラ」ができます。何とも不思議な植物ですね。



オドリコソウ

茎のまわりにクルリとならんで花が咲いているようすは、かわいらしい踊り子さんたちが集まっているようすです。オドリコソウの花を観察していると、お尻が黒と黄色のしま模様トラマルハナバチを見ることが出来るでしょう。このハナバチが竹中にたっぷり花粉をつけて、花から花へ花粉を運びます。

オキナグサ

日当たりの良い土手などに見られる植物ですが、だいぶ少なくなっていました。春につりがねの花を下むきにつけます。6枚の花びらをもつように見えますが、これはがくで、花びらはありません。白くて長い毛をもつ果実の周りを、おきな(翁=老人)に見立てたのが名前の由来です。



タチツボスミレ

スミレにはたくさん種類がありますが、林の縁から道端にまで、私たちが一番見る機会が多いのがタチツボスミレです。春に紫色の花を咲かせますが、赤みが強かったり青っぽかったり、また白っぽい花もあつたりします。種にはアリの好きな物質がついていて、いろんな所に運んでもらうお手伝いをしてもらいます



セイヨウタンポポとエゾタンポポ

この付近のタンポポには大きく分けて2種類のタンポポがあります。ひとつは遠いヨーロッパの国からやってきたセイヨウタンポポ、もうひとつは、もともと日本にあるタンポポでエゾタンポポです。セイヨウタンポポは、黄色い花びらを包んでいる緑色の下側部分が、外側にそり返っていますが、エゾタンポポはそうではありません。今度タンポポの花を見つけたら、花の下をのそいでみましょう？



オオハコ

土の道には、自転車や人間が踏みつけても、生きていくことができる植物がえています。その代表選手が、このオオハコです。踏まれてもメグスに元氣よく生きている、それどころか他の植物が生

えることがむずかしいので、ここぞとばかりに設置を贈やしていくのもオオハコの特徴です。

オオハコの長い根をからませて、二人で引っ張りっこして遊んだ人もいでしょう。場所によっては「けえろっは」「かえるっは」なんて名前もありますか、皆さんはなんて呼んでいるのかな？

田畑のまわり

増穂町では、富士川の近くや平林地区の山間など、いろんな場所に田んぼや畑が広がっています。昔から、人が食料を得るために掘りかき草を刈ったりして使ってきた場所でも、その環境で生き延びることができた生きものたちが暮らしています。でも人から見ると、時にはやっかいな雑草や害虫になる時もある。雑草やそれにくる虫たち、私たち人間と仲良く一緒に生きていける方法を考えた、ものがバです。

オカオグルマ

日当たりの良い草地にみられる黄色い花をつけるキウの仲間です。丸い葉っぱの花を小さい甲に見立てて、花いた丘にみられることから「丘小草」の名前がつけました。植物全体に白い毛が多く、草たけも70cmくらいになる目立つ花です。ハナアブやハナハチが花粉を運んで受粉を助けてくれるようすです。田畑の土手などに、4月から5月の中旬にかけて花がみられます。



ゴンヤク

畑の縁などに、突然1メートル近い花茎が伸びだしてきてびっくりします。この異様な花も仏炎ほう(ぶつえんほう、仏燄の火焔光背にちなむ)をもつことからマムシクサ、ウラシマソウ・ミスバシロウなどの仲間であることがわかります。

ムラサキゲマンとウスバシロチョウ

5月の桜地の森周辺で一番めつチョウがこのウスバシロチョウです。シロチョウと名がつきますかアゲハチョウのなかまで、年に1回この時期だけにあらわれます。このチョウの幼虫は、雪どけとともに芽をたし6月には枯れてしまうムラサキゲマンを食べて育ちます。春だけの草に、春だけのチョウがたよって生きているのです。

